

公民館 ふっさ

No.169 目次

- ① 公民館 夏の平和事業
- ②③ 公民館ふっさ誌面講座
～多摩川から福生市の自然
環境を考える～
- ④ 公民館夏の平和事業、講座・
イベントのお知らせ

令和5年8月1日

編集
発行

■ 福生市公民館	〒197-0011	福生市福生2455 ※市民会館併設
■ 公民館事務所	〒197-0024	福生市牛浜163 さくら会館内
■ 公民館松林分館	〒197-0013	福生市武蔵野台1丁目15-1
■ 公民館白梅分館	〒197-0003	福生市熊川559-1

☎ 042-552-2118 FAX 042-552-2228
☎ 042-552-3624 FAX 042-530-2512
☎ 042-553-3454 FAX 042-530-2513



公民館ページ
QRコード

公民館 夏の平和事業

第二次世界大戦が終結して78年が過ぎようとしています。世界では依然として戦争や紛争が絶えません。日本では戦争を知らない世代が多くなり、戦時中の体験を聞く機会も少なくなっています。今年も公民館各館では、平和を考えるための各種事業を行います。戦争のない平和な世の中を実現するために何ができるのか、あらためて考えてみませんか。



昭和13年(1938年) 福生神明社付近(現在の松林通り)

＜写真提供 / 森田治男氏(松林分館平和講演会講師)＞

公民館各館(本館・松林分館・白梅分館)の平和事業は、4面に詳しく紹介します。

多摩川から福生市の自然環境を考える

講師 **野村亮氏** (NPO法人 自然環境アカデミー代表理事)

プロフィール

1968年福生市生まれ。愛鳥モデル校である福生市立福生第五小学校へ入学したことをきっかけに野鳥の観察を始める。2001年に、環境教育、野生生物の調査、野生生物の保護を目的にNPO法人自然環境アカデミーを設立。福生市を拠点に「自然から学ぶ」をキーワードに、人と自然との共生を目指した、地域に根差した教育・まちづくり活動を展開している。

福生市環境審議会委員 福生市文化財保護審議会委員 東京都鳥獣保護管理推進員
山階鳥類研究所鳥類標識調査員



皆さんは福生市の自然環境をどのようにとらえていますか？ 緑豊かなまち、自然が少ないまち、山々に囲まれたところでもなく、大都會でもない福生市の自然環境をどのようにとらえるかは人によって様々だと思います。私は福生に生まれ育ち、長年周辺の自然や生き物たちを観察してきました。今回は福生の自然環境とその変化について記します。

◆母なる川多摩川

福生の自然環境を語るうえで欠かせないのが多摩川です。福生市は全域が多摩川の扇状地の一部であり、かつて多摩川の川底だったことを示



す河岸段丘になっています。つまり、福生市の地形は多摩川によって形作られたものです。河岸段丘という地形は、大昔に多摩川の洪水によって削られた川岸である段丘崖と、そのとき川底だった段丘面によって成り立っています。現在、街が作られている場所はほぼ平らな段丘面、そして段丘崖はハケと呼ばれる崖や坂を形成しています。

この河岸段丘地形は、福生市を高さによって大きく三つに分けています。多摩川に近い方から北田園や南田園の河原面、一段上が青梅線や多摩街道の通っている拝島面、さらに一段上がって八高線や国道16号線の通っている立川面の三つです(さらに細かく分けると千ヶ瀬面、天ヶ瀬面、川崎面があります)。ここでは説明を割愛します。この地形は街の成り立ちにも関係しています。

古くから人が住む街が形成されていたのは、拝島面の西側で奥多摩街道沿いの辺り、つまり多摩川に近い方です。ここには今でも屋敷林を有するような大きな屋敷が点在しています。そして、かつて拝島面の東側や立川面は畑や雑木林として、河原面は水田として利用されてきました。しかし、平らな土地である段丘面は、開発がしやすいために戦後次々と住宅地が変わってきました。

かつて水田、畑、雑木林だったところのほとんどが住宅地になっています。水田にはトンボやカエル、それらを食べる水辺の鳥たち、雑木林にはカブトムシや森林性の鳥などを中心としたそれぞれの生態系がありました。今では、それらのほとんどを見ることができなくなりました。そのような中であって、段丘崖は傾斜地のために開発しづらく、今でも緑が残る貴重な場所になっています。

現在、市の西側を南北に流れる多摩川には、誰もが親しむことのできる自然があります。多摩川の土手を歩けば、奥多摩の山々や草花丘陵、加住丘陵などを望むことができ、河原や川沿いの公園では四季折々に姿を変える自然の姿を目にすることが出来ます。多摩川は市内で最も自然を感じる事ができる場所になっています。

◆多摩川の変化

しかし、この多摩川の自然も私が子どもの頃(およそ50年前)からずいぶんと変化しました。こういうと昔に比べて環境が悪化したと考えられる方も多いのではないかと思います。ですが、当時と比べ一番変化したことは、水質が良くなったことです。約50年前、多摩川の水質は最も悪い状態でした。当時は急激に流域の市街

化が進んだ時代でしたが、下水道の普及率はまだ低かったため、多摩川に生活排水が流入していたことが原因でした。さらに当時は羽村堰において多摩川の水をほぼすべて玉川上水に取水していたことにより、その下流である福生市域の多摩川には、今よりずっと少ない量の水しか流れていませんでした。その頃、私はよく多摩川で釣りをしていました。濁った水が淀んでいる川の姿が記憶にあります。水の中に入って遊ぶなど、とてもそんな気持ちにはなれない川でした。その後、徐々に下水道が整備され、平成の初期には羽村堰からの放流(川の水の一部を下流に流すこと)も始まり、多摩川の水質は改善されてきました。平成16年に福生水辺の楽校が開校された時には、川に入っても問題ないレベルにまで水質が良くなっていました。水質が良くなったことで多摩川に棲む水生昆虫や魚の種類と数は増えたと考えられます。60〜80年前の多摩川の記憶をお持ちの方からすれば、今の多摩川の水質もまだまだかもしませんが、近年カワセミやサギ類、カワウなど主に魚を食べている鳥も増えています。

水質以外の多摩川の変化としては、河原の樹林化があげられます。今、土手から多摩川を眺めると、皆さんは福生市の自然環境をどのようにとらえていますか？ 緑豊かなまち、自然が少ないまち、山々に囲まれたところでもなく、大都會でもない福生市の自然環境をどのようにとらえるかは人によって様々だと思います。私は福生に生まれ育ち、長年周辺の自然や生き物たちを観察してきました。今回は福生の自然環境とその変化について記します。

河原の中に大きな木がたくさん生えているのが見られます。そして、石がごろごろしている石河原の面積が狭くなっています。福生付近は多摩川の上流から中流にあたるところで、本来そのようなところの河原は石河原や草原が広がる場所であって、大きな木がたくさん生えるような場所ではありません。この樹林化がなぜ進むのかについては、いろいろな原因があるといわれていますが、その一つに土砂供給量の減少があります。川は洪水のたびに上流から土砂を運んでいきます。そして山から平地に流れ出たところにその土砂を積み重ねて扇状地を作ります。本来であれば福生付近はそのような土砂が堆積するところでした。しかし、現在の多摩川ではダムや堰がたくさん作られているため、洪水があってもせき止められてしまったり、上流から運ばれてくる土砂の量が減っているそうです。反対に洪水が起こると、今ある土砂が流出してどんどん川底を削ってしまっています。このようにして水が流れているところが深くなってしまうと、河原の中で水が流れているところと流れていないところの高低差が大きくなります。高いところは安定化して大きな木が育つことになりやすくなります。いったん樹林が発達すると洪水が起きても削

◆絶滅の危機に瀕する植物

もともと多摩川の石河原にたくさん咲いていたカワラノギクという植物があります。今、このカワラノギクは絶滅の危機に瀕しています。それは樹林化により石河原が減ったことが主な原因です。カワラノギク以外にもカワラニガナ、カワラヨモギ、カワラケツメイ、カワラナデシコなどの河原特有の植物が減少して



絶滅の危機に瀕しているカワラノギク

られます。また、カワラバツタという石河原にのみ生息する昆虫も少なくなっています。石河原特有の生態系が失われている状態です。

◆複雑化する問題

多摩川には外来種の植物も数多くあります。植物だけではなくクビアカツヤカミキリ等の昆虫、アライグマ、ハクビシンのような哺乳類も外来種として数が増えています。これらも多摩川の生態系を変化させている大きな要因の一つです。

いずれの問題にしても、人の生活や安全に関わっていることでもあります。簡単に解決できることではありません。しかし、まずは問題をしっかりとらえ、対処していかなければならぬことだと考えます。

私が福生の自然環境について関心を持ち、学習を積み重ねてくることができたのは、愛鳥モデル校である福生第五小学校で鳥に出会い、また公民館の講座等で多くの地域の方々から専門的な知識を授けていただいたおかげです。最後に、あらためて私を育てていただいた皆様に感謝を申し上げます。

公民館夏の平和事業

■松林分館

平和講演会

「私の少年時代」

戦中・戦後の福生での暮らしぶりや当時の様子、講師の経験などについてお話しいただきます。

【日時】8月6日(日)午後2時〜3時30分

【場所】松林分館

【対象】市内在住・在勤・在学の方

【定員】先着50人

【講師】森田治男氏

【申込み】松林分館で受付中

平和首長会議原爆ポスター展

広島市、長崎市に投下された原爆について、被爆の実相、核兵器の被害を伝えるポスター展です。

今も世界では戦争や紛争が起こり、多くの方が苦しみ、命の危険にさらされています。改めて、命の尊さや平和について考えてみませんか。

【日時】8月5日(土)〜20日(日) 午前10時〜午後5時
※月曜日は休館。最終日は午後4時まで

【場所】市民会館1階展示スペース

【問合せ】公民館係へ。

■本館

平和講座

「次世代が語り継ぐ戦争体験」

戦争体験者の証言を中心に、次世代の語り部が、当時の社会状況等を織り交ぜながらお話しします。

【日時】8月20日(日)午後2時〜3時30分

【場所】さくら会館

【対象】市内在住・在勤・在学の方

【定員】先着20人

【講師】しょうけい館語り部

【申込み】公民館係で受付中

■白梅分館

おはなし会

〜平和ってなんだろう〜

絵本の読み聞かせを通して、戦争を知らない子どもたちと一緒に平和の大切さを考えます。

【日時】8月24日(木)午前10時〜11時

【場所】白梅分館

【対象】小学生(小学生は保護者の同伴も可) ※就学前児童は要相談

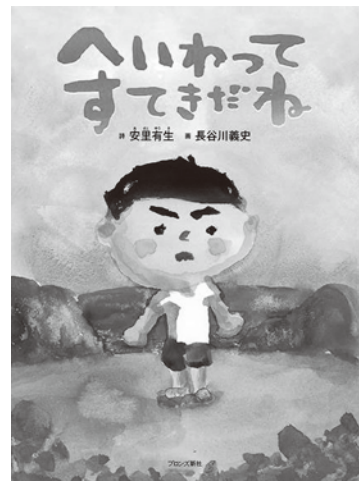
【定員】先着20人

【講師】大島真理子氏、松田規子氏、木村彩乃氏(絵本専門士)

【内容】『へいわってどんなこと?』(浜田桂子/著)、『へいわってすてきなね』(安里有生/著、長谷川義史/絵)など絵本

の読み聞かせの他、平和に関する本を紹介いたします。

【申込み】白梅分館で受付中



『へいわってすてきなね』
(安里有生/著、長谷川義史/絵
ブロンズ新社/刊)

講座・イベント

■白梅分館

熊川分水に親しむ講座

〜熊川分水のこれから〜

熊川分水を歩きながら、今後の保全や活用について考えます。「熊川分水」を知っている方もそうでない方も歓迎です。

【日時】9月2日・16日・30日、10月7日の各土曜日、午後2時〜4時(全4回)

【場所】白梅分館ほか

【対象】市内在住・在勤・在学の方

【定員】先着20人

【講師】高崎勇作氏(元福生市文化財保護

審議会会長)、熊川分水に親しむ会
【申込み】8月5日(土)から、直接または電話で白梅分館へ。

■松林分館

松林サマーコンサート

〜真夏のJazz Night〜

金属製の音板をもつ鍵盤打楽器であるビブラフォンとピアノのデュオによるジャズを、生演奏でお届けします。

【日時】8月25日(金)午後6時30分開演

※午後6時開場

【場所】松林分館

【対象】市内在住・在勤・在学の方

【定員】先着50人

【曲目】On The Sunny Side Of The Street、ルパン三世のテーマほか

【出演】中島香里氏(ビブラフォン)、Simon Cosgrove氏(ピアノ)

【申込み】松林分館で受付中

■問合せ・申込み

午前9時〜午後5時の間に、直接または電話で公民館各館へ。

(※月曜日は休館です)

◇公民館係 ☎552・2118

◇松林分館 ☎552・3624

◇白梅分館 ☎553・3454